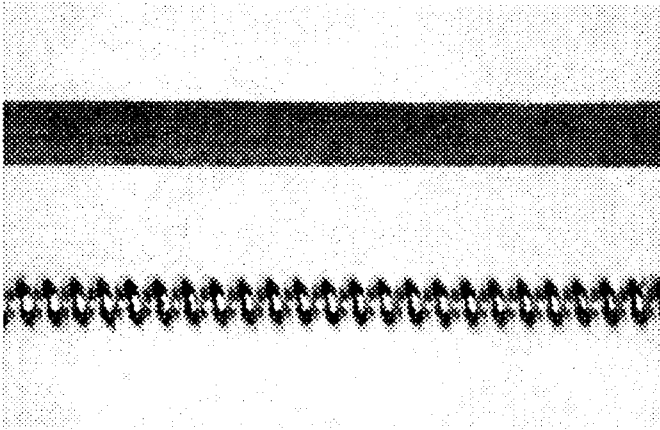


# 直径60ミリの微小バネ開発

## ファインパーツ



半導体  
検査

### コンタクトプローブ向け

クオブアメリカの組立工場。日本から部品を運んで射出成形機を組み立てる拠点で、生産能力は月

現在の需要落ち込みもあって閉鎖に踏み切った。今後米国市場に向けては、千葉市稲毛区のメー

西区、花野実社長、078・991・4451は、ダイカストマシン市場に参入する。中国の上

ら調達する、品質が安定した低価格機を7月中に発売する。顧客と見込む国内自動車メーカーの設

ファインパーツ（横浜市神奈川区、黒田義光社長、045・423・6400）は、直径60ミリのマイクロは100万分の1の

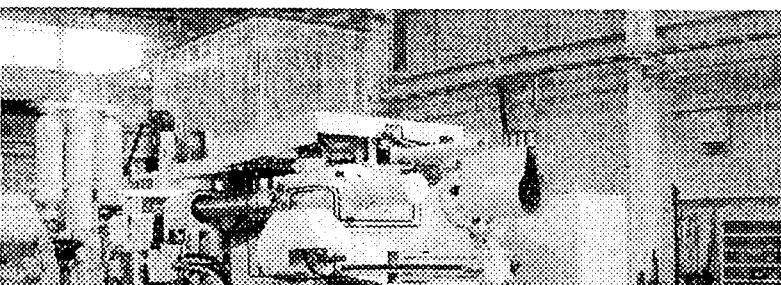
年内の量産を見える。月産能力は最大数万本を予定。価格は1本200円前後。今後は、さらに微小な直径55ミリのものを実用化していく。

開発した直径60ミリの微小バネは、太さが15ミリのピアノ線からなる。検査では等間隔に並べた針状のプローブを基板に接触させて電気を流し、機能を確認する。

精密な検査にはこの間隔を狭くする必要があり、より細くという要求を見越して

開発、量産化に着手した。同社従来品では直径65ミリの量産の限界だった。バネはプローブ内部で接触時のクッションとして働く。

同社によると形や荷重などの完全オーダーメイドと、自社内にメッキ施設を有するため、納期短縮が可能という。開発にはピアノ線をローラーで送り出すガイド部分や巻き付ける軸を改良。髪の毛より細いバネが詰まったり曲がったりしないようにした。（横浜）



が、2009年度（3億円）の販売す。4月に上海一達70%、花野が30%で設立した合弁「LKジャパン」市西区、資本金4万円）を通じ、ト機械製のダイカス